■研究発表論文

『星山別曲』にみる物境，情境，意境概念に着目した息影亭の景観構造

Landscape structure of the <Sik-Yong-Jung> focused on the concept of <Wujing, Qingjing and Yijing> in <Seongsan-Beoylgok>

崔　賢妊*　　下村　彰男*　　小野　良平*

Hyunim CHOI　Akio SHIMOMURA　Ryohei ONO

Abstract : This study focused on the concept of Yijing as a way to understand the traditional space. And it cleared the structure of the traditional space by Yijing that read from the analysis of poetry related to the space, to be used as one way to understand the traditional space. The structure of the Yijing is analysis framework in this study. The subject of the research in this study is Seongsan-Beoylgok which sang the Sik-Yong-Jung of Gasa-literature and Sik-Yong-Jung that Korea's traditional space. It clarified the landscape structure of Sik-Yong-Jung by Yijing that is read from a combination of Qingjing and Wujing extracted from the poetry of Seongsan-Beoylgok. And the purpose of the study presented as a new “The way of seeing at things” to people to appreciate and understand the traditional space. As a result, it was confirmed that the present as possible on the landscape structure of Sik-Yong-Jung by Yijing of Seongsan-Beoylgok and “The way of seeing at things” for the people who see the landscape of traditional space.

Keywords: *Seongsan-Beoylgok, YiJing(Idea and Boundary), Qingjing(Emotion and Boundary), Wujing(Object and Boundary), Sik-Yong-Jung, landscape structure*

キーワード： 星山別曲，意境，情境，物境，息影亭，景観構造

１．はじめに

詩文学の作品において，作者の景観に対する姿勢は，環境を単純に物理的な対象として見るだけではなく，自分の感情，教育，体験などを移入して心と頭で眺め，主観的に表現している。これは漢字文化圏の芸術分野で言うところの「意境」の境地だといえる。実際に見えるリアルな景観を実景とすれば，それを投影して頭の中で想起した境地を意境として示し‘景’ではない‘情’を，‘実’ではない‘意’をより強調する態度である。意境は主観と客観，虚と実，情と景(物)，そして意と境の組み合わせにより，有限から無限に進み，観賞者に深い感動を与える芸術境界[1]だといえる。

詩歌においては，‘境’とは生活の中における事物の性状が詩に客観的に反映されたものであり，‘意’は作者の心の中の感情や考え方が詩に表れることをいう。意境はこの二つの統一，‘感情と客観物の融合’と‘形式と情神の兼備’の芸術的境地であるといえる[2]。‘意境’は作者が作品の中に究極的に表現しようとする精神世界を意味する[3]。すなわち，詩歌は事物そのものを口ずさんだり，事物を媒介にして自分の意志や感情を歌う様式として，客観景物と主観意義が融合して，行われるようになる。客観的景物(物境)と作者の主観的情感(情境)が融合して意境に至るには，物の客観的性状を理解して，それによる感覚的思考の過程が働くようになって行われるものである。このような感覚作用が認知の過程を経ながら，徐々に深化されて物境と情境，意境で表される。結局，詩歌の創作では客観的景物に作者の主観的定義を結合することによって，作者が追求する美的境界である意境を成すこと[4),5),6)]になる。このような物境，情境，意境に関しては，表－１で示すように研究者と研究に伴い様々な説明や定義があるが，共通に示されるのは実際に目にみえる客観的な事物や景観に関するものが‘物境’で，このような物境に作者の主観的な感情を投影，反映して表現したものが‘情境’である。そして，客観的物境と主観的情境の組み合わせに作者の思想や理念などを融合してたどり着く精神的な世界を表現したものが‘意境’と定義することができる。したがって，空間を表現した優れた芸術作品において，その意境について考察することは，現実の空間の観賞に際してもより深い空間体験を引き出し，あるいは提供する[7]うえで，有用な鍵を与えてくれると考えられる。

詩文と伝統空間の意境に関する既往研究を見ると，金賢美(2011)は朝鮮時代の別墅庭園である瀟灑園の意境の様相を分析[8]したが，意境の概念について明確に提示していない。孫庸熏(2011)は詩文分析を通じて昌徳宮の後苑の意境と景観の特性を分析し，意境の構造を抽象的な図式として提示[9]した。そして，谷光燦(2011)は「瀟湘館」の意境をとりあげ，中国の古典庭園の意境を分析[6]したが，建物内部のインテリアに対する言及が多くの比重を占めており，一つの文学作品とみなし，言語学的な分析方法を通じて「瀟湘館」の意境を分析した。

これらの研究例は比較的人工的な庭園空間を対象にしたものである。しかし，三境の体験はより多様な空間に対して捉えられて

表－1 三境の概念

作者	物境，情境，意境の概念例
中国美学範疇辞典(2003)	■物境：自然景物のこと
	■情境：人間の感情と思想意識を指す
	■意境：情と景の融合を基に，これをもとに概念と形状が昇華された特徴的な美学的世界
辭海(2000)	■意境：文芸作品あるいは自然景観に現れた感情と合致した空間世界
孫庸熏(2011)	■物境：物理的形態の美しさあるいは事実の認識を意味
	■情境：物理的形態に創作主体の想像力を加えた五感の表現であり，創作主体の感情の興趣
	■意境：創作主体の精神世界から伸びて出た真理，理想
谷光燦(2010, 2011)	■物境：客観的景物(物の客観的形状)
	■情境：作者の主観的情感(感覚的思考の過程)
	■意境：客観的景物(物境)と作者の主観的情感(情境)が融合してたどり着くもので，物の客観的形状を理解して，それによる感覚的思考の過程が働くようになって行われるもの
Im Joeng-Woo (1997)	■物境：客観的な事物や対象
	■情境：主観的な思想と感情
	■意境：主観的な思想と感情が客観的な事物や対象を会って融合して生成される意味や形状の‘芸術的境界’

*東京大学大学院農学生命科学研究科

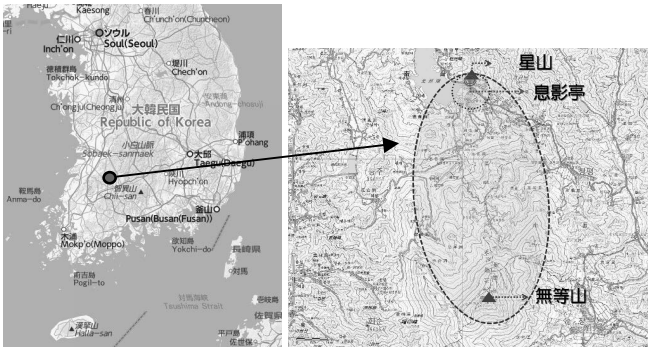

図 - 1　対象地の位置と視対象範囲
（Yahoo-map[10]と国土地理情報院[11]より作成）

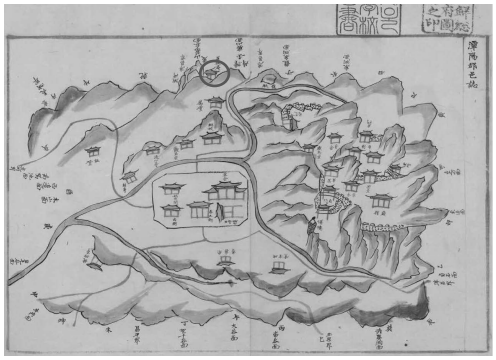

図 - 2　対象地（息影亭：○で表示）と周辺地の樓亭の様子
（潭陽郡邑誌（1899 年）[12]）

きたものである。たとえば韓国では自然の中に亭を置くだけでしつらえられた観賞空間も多く，詩文学でとりあげられたものも少なくない。

そこで，本研究では後に記述するように意境を表現した代表的な詩歌として知られる「星山別曲」を取りあげ，そこに描かれた「息影亭」を取り巻く「境」の分析を通して，物境，情境，意境の相互関係を整理し，各境を構成する要素や表現の特徴を明らかにして，三境の景観体験の構造的特性について考察することを目的とする。

２．研究の方法

（１）　研究対象の概要

研究対象として韓国の全羅南道の潭陽地方（図 - 1）の代表的な伝統な観賞空間である「息影亭」とその周辺を詠った歌辞文学である星山別曲（1562）をとりあげる。「星山別曲」の作者である松江鄭澈が星山別曲を創作した当時にも，単なる自然景観の美しさだけを描写したわけではないと考えられる。息影亭という伝統空間は鄭澈が造営したものではないが，息影亭の造営者と鄭澈が一緒に交わって互いの考えを交換した仲だったことを勘案すると，息影亭とその周辺の景観構造と，物境，情境，意境との関係を分析，考察する対象として星山別曲は，重要な手がかりを与えてくれると考えられる。

１）　息影亭とは

韓国では現在全羅南道地方にのみ300余りの樓亭が残っている（図 - 2）が，これは樓亭を建設し，詩をうたって，風流を楽しみながら悠々自適な生活を営む，湖南士林の特徴や地域性が反映された結果だといえる[13]。この中で息影亭は湖南士林の中心となった星山に位置しており，周辺景観が美しく，多くの作品の中で登場する場所でもある[14]。さらに，複数の古地図の中でも明白な位置と名称が表記されており（図 - 3），歴史を通じて重要な存在であることがうかがわれる。

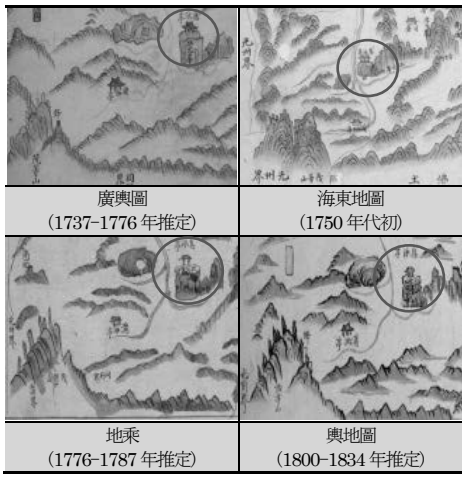

図 - 3 古地図の中の息影亭（○で表示）
（古地図[12]で部分抽出）

２）星山別曲とは

星山別曲の創作時期については多くの説があるが，時代的状況や松江鄭澈の生活と政界活動などを考慮すると，松江鄭澈が政界に進出する前の26歳前後（1561 年前後）の時期に詠んだものとされている[15]。星山別曲は松江鄭澈の代表作品であり，作品の舞台になる息影亭をめぐる景観の四季変化の流麗な描写と，息影亭の景観と主人の風流を理想郷にたとえて詠んだ，韓国歌辞文学を代表する作品の一つとして評価されている[16]。‘松江歌辞集’，‘松江別集追録遺詞’，‘棲霞堂遺稿’などに収録されている[15, 16]。

この作品は序詞，本詞，結詞に分けられており，本詞はまた，春詞，夏詞，秋詞，冬詞で分けられて計 6 部分の 84 行で構成[16]されている。それぞれの詞は内容の流れによって表 - 2 に示す構成となっている[15, 16]。

（２）分析方法

「星山別曲」の詩文分析に際しては，韓国古典総合データベースの星山別曲に関する原文と現代語への解析本を主たる参照資料としつつ，収集した星山別曲に関する研究論文や文献，そしてその作者である鄭澈の思想及び作詩の意図を把握できる文献を参考として訳語を行った。また，息影亭に関する資料は奎章閣韓国学研究院と既存調査関文献で関連古地図や造営に関する資料を収集した。末尾に著者による星山別曲の日本語訳を全文掲載する。改行は原文のままとし，文意のまとまりを考慮して句読点を加えた。

星山別曲に描かれた息影亭を取りまく物境，情境，意境について，詩文中，景物の構成要素に直接つながることが想定される「名詞」と，景物の状態および作者の情意の表現に強く関わることが想定される「形容詞」との対応関係に物，情，意の各境が表現さ

表 - 2　星山別曲の内容

		内容
序詞		息影亭を建てた金成遠の風流と気象，周辺の風情がある自然環境と風物を礼賛　（1－15 行）　－6 段落
本詞	春詞	周辺の景色を武陵桃源に比べてのんびりする心で自然を楽しむ生活の余裕　（16－25 行）　－4 段落
	夏詞	真理を探求して神仙になったように感じながら自然の中の安穏な生活を描写　（26－41 行）　－7 段落
	秋詞	遊船の風流と秋月夜の風情（42－58 行）　- 6 段落
	冬詞	雪が降った冬の風景を描いてここに隠居する山翁（金成遠）を描写（59－66 行）　－3 段落
結詞		世の中のすべての憂いを忘れて，お酒と琴で興趣に濡れた神仙のよううな山の奥の風流を歌う（67－84 行）　－7 段落から構成（全部同様）

れると仮定し，その組み合わせに着目して分析，考察を行った。

これら名詞と形容詞との組み合わせを分類，整理し，物境，情境，意境，各々との関係について，構成する要素や把握，認識のされ方から分析した。

具体的な分析としては，a．星山別曲に描かれた「境」を構成する要素として，「名詞」を抽出したうえで，b．構成要素の形容方法およびc．表現手順，の3段階で分析を進めた。分析の詳細な手順は以下のとおりである。

a．構成要素の抽出:「境」を構成する要素として詩文に記載されている「名詞」を抽出し，それらの性格に応じて分類する。

b．形容方法の分析:構成要素がいかに描かれているかについて分析することを目的として，名詞に関わる「形容詞」(形容動詞を含む)を抽出し性格分類するとともに，形容形式についても直接，間接に2区分する。直接形容とは「美しい天の川」のように「形容詞+名詞」と表現されるものであり，間接形容とは「天の川を～広げたようなことが非常に豪華だね」のように形容詞と名詞が隣接せず離れて形容する表現方法である。

c．表現手順の分析:詩文は 序詞，春詞，夏詞，秋詞，冬詞，結詞に分節されている。構成要素である名詞，特に形容詞との組み合わせによって強調された構成要素が，どの分節および段落において現されているかについて分析する。

3．結果および考察

（1）星山別曲における「境」の構成要素の分析

星山別曲の詩文で「境」を構成する構成要素として詩文に記載されている「名詞」を抽出すると，総計163個，頻度合計206個の名詞要素が抽出された。

抽出された要素(名詞)は，大きく，境を構成する自然要素(自然構成要素)と境における人の営為や活動を示す要素，歴史上･思想上のことを示す要素の3つに分けられる。そして，自然構成要素は境の骨格(フレーム)を形成する要素と境の変化や彩りを示す要素に分け，前者は「地物」と「天文」に，後者は「気象」，「時間」，「生物」，「季節」に区分した。また，境における人の営為や活動を示す要素はその舞台や主体等を勘案し「人工物」，「生活」，「地名」，「人物，他」に4区分した。そして，歴史上，思想上の人物や事物を示す要素や文脈の中でそれらの人物，事物が読み取れる表現を「思想」に区分した。

表‐3　名詞の抽出と分類

分類	要素	合計(個)	頻度合計(個)
地物	江(2),山(8),波,土,道,芳草洲,水(3),石逕,川(4),砂場,岩,谷(2),島,丘,瀬	15	29
天文	天(2),天の川(2),空(3),月(4),雲(4)	5	15
気象	日差し,日なた,雨(2),影,風,日よけ,霧,雪	8	9
時間	今,昔,早朝,一夜,四更,昼,夕日,満月,おととい	9	9
生物	ウグイス,魚,鴨,カモメ,牛,鶴(2),羽,松(4),梅花,花(2),きゅうり,桃花,蓮,桐木,蓼花,菱花,草,茂み	18	23
季節	四季,季節(2),南風,緑陰,六月,晩秋,秋,七月,八月,落ち葉,北風	11	12
人工物	棲霞堂,息影亭,亭,環壁堂(2),竹床,窓,垣根,欄干(2),釣り場,船,滝壺,船首,丸木橋,草履,竹杖,明鏡,枕,麻衣,葛巾,笛,棒,玉,籍,酒,杯,琴,弦	27	29
生活	席,暦,世間(3),家,石屏風,友(3),うわさ,風入松,運,風流(2),雑念,香り,眠り(3),風景,話,瓢箪,音,一曲	18	25
地名	星山,瑞石,滄溪,西河,鷗鷺岩,紫薇灘,湖洲	7	7
人物,他	客,主人,私,あなた,誰,君,皆,文人,老僧,子供,老人,体,耳,顔	14	14
思想	神仙世界,青門故事,武陵桃園,別天地,羲皇,濂溪,宇宙原理,太乙眞人,玉字,水晶宮,廣寒殿,龍,蘇東坡,赤壁賦,謫仙,神様(2),瓊瑤窟,銀世界,人物,時代,聖賢,豪傑,許由,神仙(3),瑤帶,心,心配,お寺,人,志操,行状	31	34
総計(個)		163	206

注：「生活」には抽象てきな空間，人物を比喩的な表現したものを含む。「思想」には歴史上，思想上の人物や空間等が含まれ，文脈の中で特定の人物，事物を読み取れる表現も含む。

表‐4　形容詞の抽出と分類

分類		要素	合計(個)	頻度合計(個)
属性形容詞	数量的形容	遠い(2),深い(2),小さい(2),大きい,細い,高い,広い,多い(2),生い茂る,数多い,たくさん,少し	12	16
	色的形容	白い(3),紅い,青い(2),赤い	4	7
状態形容詞	感覚的形容	静かだ,強い,明るい,うるさい,芳しい,涼しい	6	6
	視覚的形容	浅い,暇だ,穏やかな,突然,新た,斜めに,美しい,豪華だ,清い,きれいだ	10	10
心理形容詞		良い･いい(4),寂しい(2),仰々しい,好きだ,怖い,せつない,険しい	7	12
総計(個)			39	51

各グループに現れる名詞の種類と頻度数は表‐3に示すとおりである。表‐3によると，「思想」に区分される名詞が31個(頻度34個)と最も多く，次いで「人工物」が27個（頻度29)，「生物」が18個(頻度23個）と続いている。そして，特徴的な傾向を示したのが「地物」，「天文」要素であり，「地物」は15個の名詞が，「天文」は5個の名詞が抽出されたが，頻度合計数がそれぞれ29と15と2倍から3倍の値を示している。各所に同一の名詞が使用されている他，複数の形容詞と組み合わせて表現されており，「境」の骨格を形成する構成要素として，様々に表現されていることが理解される。

表‐5　要素の形容方法

		属性形容詞		状態形容詞		心理形容詞	合計(個)	総計(個)
		数量的形容	色的形容	視覚的形容	感覚的形容			
地物	直接形容	5	2	1	2	2	12	16
	間接形容	0	0	0	2	2	4	
天文	直接形容	4	0	2	0	0	6	7
	間接形容	0	0	1	0	0	1	
気象	直接形容	0	0	0	0	0	0	0
	間接形容	0	0	0	0	0	0	
時間	直接形容	1	0	0	0	0	1	1
	間接形容	0	0	0	0	0	0	
生物	直接形容	2	5	0	0	0	7	7
	間接形容	0	0	0	0	0	0	
季節	直接形容	0	0	0	0	0	0	4
	間接形容	0	0	0	2	2	4	
人工物	直接形容	1	0	0	0	0	1	3
	間接形容	0	0	1	0	1	2	
生活	直接形容	1	0	0	0	0	1	3
	間接形容	0	0	0	1	1	2	
地名	直接形容	0	0	0	0	0	0	0
	間接形容	0	0	0	0	0	0	
人物,他	直接形容	0	0	0	0	0	0	0
	間接形容	0	0	0	0	0	0	
思想	直接形容	0	0	0	0	0	0	6
	間接形容	3	0	1	0	2	6	
合計(個)		直接形容 14 / 間接形容 3	直接形容 7 / 間接形容 0	直接形容 3 / 間接形容 3	直接形容 2 / 間接形容 5	直接形容 2 / 間接形容 8	直接形容 28 / 間接形容 19	47
		17	7	6	7	10	47	

: 直接形容の方が多い組合わせ
: 直接, 間接が同数の組合わせ
: 間接形容の方が多い組合わせ

（2）形容方法の分析

また，構成要素がいかに描かれ表現されているかについて分析することを目的として，名詞を修飾する「形容詞」を抽出した[18),19)]。その結果，表 - 4 に示す通り，39 個の形容詞が抽出され，頻度合計では 51 個であった。これらを既往の分類知見等を参考に性格に応じて分類すると，大きく属性形容詞，状態形容詞，心理形容詞に 3 区分することができ，属性形容詞は数量的形容と色的形容に，状態形容詞は感覚的形容と視覚的形容に細分され，5 つのグループに分けることができた。

表 - 4 に示すとおり，属性形容詞と状態形容詞はともに 16 個，心理形容詞が 7 個という語数となり，数量面で大きな特徴を見出すことは難しい。

ただし，属性形容詞，心理形容詞の頻度合計が語数を上回り，複数個所で使われているのに対して，状態形容詞は語数と頻度数が同数で，各形容詞が 1 個所，1 回のみ使用であることが分かる。

次に，構成要素としての名詞をどのように形容しているかを検討するために，名詞と形容詞との結びつきについて分析を行った。形容形式の分析として，「形容詞+名詞」と表現される直接形容と，形容詞と名詞が隣接せず離れて形容する間接形容に分けて形容形式を分析し，その結果を示したものが表 - 5 である。

表 - 5 からは，全ての名詞構成要素が形容詞と結びつくわけではないことが理解される。「地物」のように多くの形容詞と結びつけて表現されている要素（計 16）があるのに対し，「気象」，「時間」，「人工物」，「生活」のように結びつきが少ないものや，「地名」や「人物，他」のように，結びつきがないものも見られる。

「境」の構成要素といえる名詞が形容詞と結びついているということはより詳しく表現されているわけであり，「境」の表現に際して，より重要な要素と位置づけられていると考えられる。

また，直接形容と間接形容についても傾向を指摘することができる。属性形容詞に関しては直接形容形式が多い（23:3）のに対し，状態形容詞（5:8），心理形容詞（2:8）は間接形容形式が多い。そして，「地物」，「天文」，「生物」，「時間」は直接形容形式の方が多いのに対し，「思想」は間接形容形式だけであり，総数が少ないものの「季節」，「人工物」，「生活」は関節形容形式の方が多い。

（3）表現手順の分析

星山別曲の詩文は序詞，春詞，夏詞，秋詞，冬詞，結詞に 6 区分されている。この中で構成要素である名詞，特に形容詞との組み合わせによって強調された構成要素が，どの区分および段落において表現されているかについて分析して示したものが図 - 4 である。

横軸は各区分（序詞，春詞，夏詞，秋詞，冬詞，結詞）を示し，縦軸は各区分の名詞と形容詞との組み合わせの個数を示す。

図－4 からは，「地物」については序詞から結詞まで各区分全体的に形容詞との組み合わせが現れ，「天文」も序詞，秋詞，結詞と，最初と最後そして中間に組み合わせが現れることが分かる。それに対し，「生物」や「季節」，「人工物」は本詞（春詞，夏詞，秋詞，冬詞）の季節を表現する要素として現れ，「思想」は結詞に多いことが分かる。

（4）名詞，形容詞の組み合わせと物境，情境，意境の関係

星山別曲の詩文に表現された名詞（構成要素）と形容詞（性格づけ）の組み合わせは，作者である松江鄭澈というフィルターを通した息影亭を取り巻く「境」の姿を示すものであると考えられる。この中で，物境，情境，意境はどのように表現されているのか。両者の組み合わせを整理した表 - 5 を用いて考察する。

表 - 5 を見ると，直接形容形式が多い組合わせと，間接形容形式が多い組合わせがあり，ある種の傾向があることがわかる。

そして，複数の文献による定義にもとづき，物境を，目に見える事物や景観をありのまま表現したものと理解すると，「形容詞＋名詞」という直接形容形式で表現される組み合わせが中心になり，一方，情境を，作者の感情や場の雰囲気を構成要素に投影・反映させたものと理解すると，こちらは間接的な形容形式が中心になると理解される。

こうした視点を念頭に置いて表 - 5 を見ると，以下の点を指摘考察することができる。

表 - 5 における名詞と形容詞との組み合わせについては，「地物」，「天文」そして「生物」と「属性形容詞」との組み合わせに

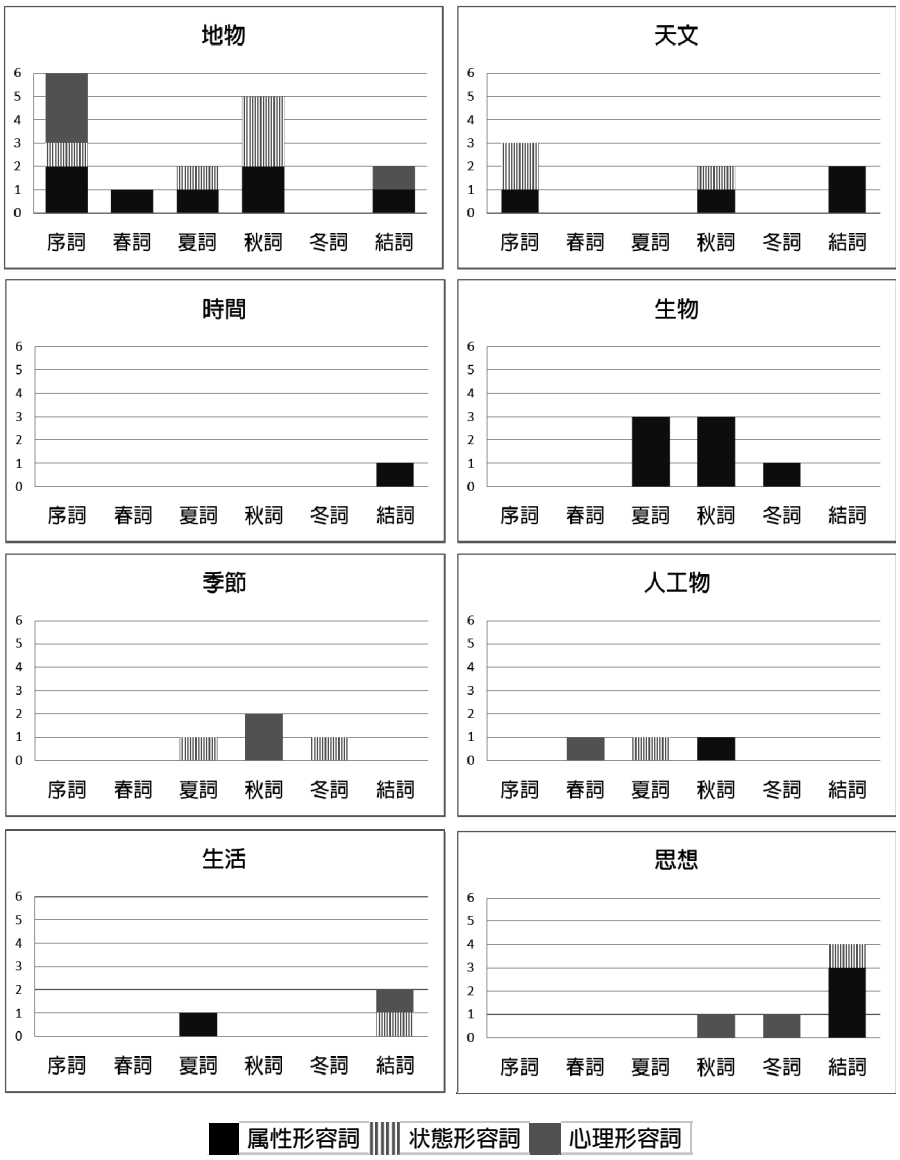

図 - 4　表現手順

表 - 6　各分節内での表現手順

			物境		情境		意境	
分節		段落	名詞	形容詞	名詞	形容詞	名詞	形容詞
1	序詞	①						
		②			江、山	良い、静かだ、寂しい		
		③						
		④	天	遠い				
		⑤	波	白い	天の川	美しい、豪華だ		
		⑥	山	深い			仙間（神仙世界）	
2	春詞	①						
		②						
		③	道	小さい				
		④			明鏡	良い	武陵桃源、仙界	
3	夏詞	①						
		②			眠り	浅い		
		③	松	大きい	葛巾	斜めに		
		④	連	白い、紅い	山	芳しい		
		⑤					太乙眞人	
		⑥			六月	涼しい		
		⑦	川	青い				
4	秋詞	①	岩、谷	多い	岩、谷	明るい		
		②						
		③	島、蓼花、菱花	小さい、赤い、白い				
		④	丘、草、笛	生い茂る、青い、小さい	江	清い		
		⑤			七月、八月	いい		
		⑥	雲	細い	川、雲	穏やかな、きれいだ	謫仙(神仙)	仰々しい
5	冬詞	①	茂み	数多い	山、北風	寂しい、強い	神様	好きだ
		②						
		③					瓊瑤窟(神仙世界)	
6	結詞	①	山、昔	深い、遠い			聖賢、豪傑	たくさん
		②						
		③			音	うるさい	許由	
		④					心	新た
		⑤			世間	険しい	心配	少し
		⑥						
		⑦	空	高い、広い			瑤帶、神仙	
合計(件)			20	21	19	19	6	5

ついては直接形容形式であり，「状態形容詞」および「心理形容詞」と「季節」，「人工物」，「生活」との組み合わせでは間接形容形式が中心であることが見て取れる。また「地物」，「天文」については，「状態形容詞」や「心理形容詞」による間接形容の組み合わせも相当数見られる。こうした傾向は比較的顕著に見られることから，前者の組み合わせで表現されている境が「物境」であり，後者の組み合わせで表現されている境が「情境」であると考察される。また意境については，作者の知識や思想にもとづき，物境や情境に重ねられたものと理解され，「思想」と各形容詞とにより間接形容形式で表現された境であると考察される。

これらは，基本的な景観の骨格を示す構成要素として，「地物」や「天文」が用いられ，息影亭の全体的な景観を表現する要素として使用され，「生物」や「季節」，「人工物」等は，季節毎の景観の移り変わりや多様な姿の表現に用いられていると理解される。そして，「思想」は結詞に多く現れているが，これは序詞から本詞の冬詞に至るまで，数々の要素の組み合わせ表現を通じて息影亭の景観を描写したうえで，結詞に至って作者が示そうとする理想郷に結びつけていくという手順が踏まれていると理解される。

以上のように，物境，情境，意境の具体的なイメージを考察整理したうえで，物境，情境，意境の区分内での表現手順についても分析を加えた。表 - 6 は物境，情境，意境を示す要素や組み合わせが各区分内のどの段落に出現するかを示したものである。

また意境に関しては，特に複合的な「境」表現を抜き出し，網がけで示している。この表 - 6 からは，物境，情境，意境がどのような手順で表現されているかをみることができ，特に意境に関与する表現が各区分の最後の段落に現れる傾向が強いことが分かる。そして，図 - 4 でも指摘したとおり，特に結詞では段落全般にわたって意境が表現されている。こうした表現手順をみると物境，情境を順次の表現してゆき，その過程を通して意境に導くという手順が踏まれていると考察される。

4．おわりに

本研究の成果は以下のようにまとめられる。

・「境」の構成要素を示す名詞と，その形容表現である形容詞との組み合わせに住目したところ，星山別曲においては一定の種類の名詞(「地物」，「天文」，「生物」，「思想」　等) と形容詞の組み合わせにおいて結びつきがあること，すなわち「境」を表現する一定のパターンがあることが確認された。

・ このうち「地物」，「天文」，「生物」等の名詞と属性形容詞の直接的結びつきから「物境」が表現されていること，「地物」，「季節」，「人工物」，「生活」　と状態形容詞および心理形容詞の間接的結びつきから「情境」が表現されていること，「思想」の名詞と各形容詞の間接的結びつきから「意境」が表現されていることが考察された。

・ 星山別曲全体の流れの中で，各節の中でそれぞれ物境および情境が表現されたのちに意境が提示され，全体の最後の節において特に意境が強調されている構造が認められた。

以上の星山別曲の分析を通して得られた物境，情境，意境，のそれぞれが，基本的には息影亭において作者が詩文として表現したことの解釈に留まるものである。しかし，その際に特定との景物と形容の対応関係が認められること，その対応関係を通して物境および情境が意境へと深化していくプロセスが認められたことは，この三境の体験の構造的性格と捉えることも可能である。その構造性は個別の詩文の解釈や観賞法を超えて，現実の景観の体験においても，その体験の質を高め楽しむための「風景のみかた」の作法として，風景計画論としても示唆に富むものではないかと考えられる。

引用文献

1) Im Joeng-woo（1997）：東洋文学批評用語辞典，汎友社，705-708
2) 林 美淑（2004）：意境説の形成過程と美学特徴に関する研究，慶北大学，5-27
3) 大東文化大学人文科学研究所（2003）：『中国美学範疇辞典』訳注第一冊，大東文化大学，285-296
4) 谷 光燦ら（2008）：拙政園の扁額と対聯による意境と空間に関する研究：環境情報科学論文集 22，429-434
5) 谷 光燦ら（2008）：竹が描かれた山水画における空間の表現に関する研究：　ランドスケープ研究 71(5)，603-606
6) 谷 光燦ら（2011）：中国古典園林における意境と空間要素の関係に関する研究-小説『紅楼夢』の「瀟湘館」を事例として：食と緑の科学 65, 87-96
7) Maggie Keswick(1978) : The Chinese Garden，Harvard University Press，USA，119-123
8) 金 賢美（2011）：朝鮮時代の別墅庭園である瀟灑園の意境様相分析，ソウル市立大学，16-23/ 28-30
9) 孫 庸熏ら（2011）：昌徳宮の後苑の詩文分析による意境と景観の特性，韓国伝統造景学会誌 29(3)，韓国伝統造園学会, 124-133
10) Yahoo 地図：http://map.yahoo.co.jp/，2014.03.11 更新，2014.06.10 参照
11) 国土地理情報院 ： http://www.ngii.go.kr/，2012.03.28 更新，　2014.06.10 参照）
12) 奎章閣韓国学研究院 ： http://kyujanggak.snu.ac.kr/，2013.12.02 更新，2014.05.08 参照）

13) 朴 璉鎬(2005)：息影亭園林の空間特性と星山別曲，韓国文学論叢 40 集，33-58
14) 金 永模(2003)：詩作りと園林の造営方法に関する研究，韓国伝統造景学会誌 21(2)，韓国伝統造園学会，1-17
15) 朴 焌圭(1985)：星山の息影亭と星山別曲，国語国文学 94 集，5-24
16) 崔 漢善(1990)：星山別曲と松江鄭澈，牧園語文学 9 集，149-179
17) 韓国古典総合データベース： http://db.itkc.or.kr/，2014.01.14 更新，2014.05.08 参照)
18) Weblio 辞書： www.weblio.jp の形容詞分類，2014.05.10 参照)
19) 細川 英雄(1989)：現代日本語の形容詞分類について，国文学 158 集，91-103 を参照

参考文献

ア) 近藤 光男編(1969)：中國古典詩叢考，漢詩の意境，勁草書房，387pp
イ) 鈴木 健一(1998)：江戸詩歌の空間，森話社，317pp
ウ) 日本の美学編集委員会編集(1991)：日本の美学/ 空間：特集日本人の空間意識，ぺりかん社，219pp

＜「星山別曲」の日本語訳本＞

(韓国古典総合 [17]の「星州本」を参照に第 1 著者のよる星山別曲の日本語訳)
(詩文の文頭の数字は星山別曲の行の番号を示す。)

[1] 序詞

(1) ある通りかかったお客さんが星山に止まりながら，
(2) 棲霞堂，息影亭の主人よ，私の話を聞いてください。
(3) 世間(世の中)には良い事が多いけれど
(4) どうしてあなたは江山をより良いと思って
(5) 静かで寂しい山の中に入って出ようとしないのか?
(6) 松の下をまた掃いて竹床に席を片して
(7) しばらくちょっと上がって座ってどうかまた見たら，
(8) 遠く天辺に浮かんだ雲は瑞石を家にして
(9) 出入りする様子が主人の風流とどうか？
(10) 滄溪(滄溪川)の白い波が亭(息影亭)の手前に巻いているので，
(11) 誰かが美しい天の川を切り取って
(12) 続いておいたように，広げたようなことが非常に豪華だね。
(13) 深い山の中に暦がなくて，四季を知らずに暮らしたが，
(14) 目の前に広がる風景が季節によって自然に現れるし，
(15) 聞いて見ることがすべて神仙の世界(仙間)だ。

[2] 春詞

(16) 梅の花が咲いた窓に差し込む早朝の日差しと花の香りに目が覚めたら
(17) 山に隠れて暮らす文人がすることがないこともないね。
(18) 垣根の下の日なたにきゅうりの種をまいておいて，
(19) 草取りをして土をかぶせてあげたり雨が降ったときに手入れをすると，
(20) 青門故事が今もあることだね。
(21) 草履を急いで履いて，竹杖をあちこちつきながら行くと
(22) 桃の花が咲いた小さな道が芳草洲まで続いているんたね。
(23) よく磨いた明鏡のような水の中に映れて自然に描かれた岩屏風の
(24) 影を友として西河で一緒に行くと
(25) 武陵桃園がどこなのか，ここが別天地だな。

[3] 夏詞

(26) 南風が突然吹いてきて緑陰をかき分けて出すと
(27) 季節を知っているウグイスはどこから来たのか?
(28) 羲皇の枕をして浅い眠りをちらっと目を覚めたら
(29) 空中に立っている欄干が水の上に浮かんでいるようだ。
(30) 麻衣を羽織って葛巾を斜めにかぶって，
(31) 体を丸めて欄干にもたれて見ることが魚だよな。
(32) 一夜の雨に紅白蓮が混ざって咲くと，
(33) 風がなくてもすべての山が芳しいだね。
(34) 濂溪と向き合って宇宙の原理を問うように，
(35) 太乙眞人が玉字をかき分けて出すように，
(36) 鸕鷀岩を眺めながら紫微灘をそばに置いて
(37) 大きい松を日よけにして石逕に座ってみれば，
(38) 人の世(世間)の六月がここは晩秋のように涼しくね。
(39) 青い川に浮かんでいるカモが白い砂場に移して座って
(40) 白いカモメを友として眠りを覚めずに，
(41) どんな雑念もなく暇なことが(息影亭の)主人と比較するとどうなのか?

[4] 秋詞

(42) 桐の木に映った月が四更(夜明け 2 時頃)に昇って上がると，
(43) 多くの岩と谷(千巖萬壑)がどうして昼のように明るいのか?
(44) 湖洲の水晶宮を誰が移してきたのか?
(45) 天の川を飛び越えて廣寒殿に上がったようだ。
(46) 一対の老松は釣り場に立てておいて，
(47) その下に船を浮かべての行くままにほうっておいたら
(48) 川沿いの赤い蓼花と白の菱花(白蘋)が咲いている小さな島をいつの間に過ぎたのか，
(49) 環碧堂の滝壺(龍湫)が船首(舳先)についたね。
(50) 清江の青い草が生い茂った丘に，牛に餌を遣る子供たちが
(51) 夕日に興じて小さな笛を斜めに吹いて，
(52) 水の下にいた龍が眠りから覚めて起きそうに，
(53) 霧の間から出た鶴が翼を広げて天に飛んで上がっていくように，
(54) 蘇東坡(蘇仙)の赤壁賦は秋の七月がいいと言ったが，
(55) どうして皆，8 月の満月(十五夜)がいいとしているのか?
(56) 細くてきれいな雲が四方に晴れてきて，
(57) 空に浮かんだ月が松の上に上がっているので，
(58) 穏やかな川に映ったその月を捕まえようとして川に落ちた謫仙が仰々しいだね。

[5] 冬詞

(59) 誰もいない寂しい山に積もった落ち葉を北風が強く吹いて，
(60) 雲の群れを引き連れて雪もおし寄せてきて，
(61) 神様が飾るのが好きで玉で花を作って
(62) 数多くの茂み(萬樹千林)を美しく作りあげたね。
(63) 手前の瀬がすべて凍って丸木橋が置かれているが，
(64) 棒を担いだ老僧がどのお寺に行くというのか?
(65) 山の老人の風流を人々にうわさを立てないでください。
(66) この瓊瑤窟の銀世界を尋ねてくるか怖いんだ。

[6] 結詞

(67) 深い山の中に友達がおらず，書籍を積んでおいて，
(68) 遠い昔ながらの人物をさかのぼって数えてみると，
(69) 聖賢はもちろん，豪傑もたくさんいるんだね。
(70) 空(神様)が人を生まれるようにするときに，何もしなくはないと思うけど，
(71) どうしてその時代の運が興ったり亡びたりしたのか？
(72) 分からないことも多いが，せつなさもきりがない。
(73) 許由は耳をどうやって洗ったのか?
(74) ひょうたんの音もうるさいと言って投げつけた後に，その志操と行状がもっと輝いてるんだよね。
(75) 人の心が人の顔のように全部違って，見るほど新たなのに，
(76) 世間(世の中)の事は雲のようで，非常に険しいんだね。
(77) おとといの醸し出した酒がどれくらい発酵したのか?
(78) 杯を取ったり押したりしながら思う存分飲んだら，
(79) 心の心配が少し解けるんだね。
(80) 琴に弦をのせて一曲を弾くと，風入松(曲調)が美しく聞こえてるんだね。
(81) 誰がお客さんか主人かすべて忘れてしまったね。
(82) 高くて広い空に浮かんだ鶴がこの谷の本当の神仙(眞仙)だな。
(83) 瑤帶で，“月の下でもしその神仙を会っていないのか”と聞いたら，
(84) お客さんが主人に話すと，“君がまさにその神仙なのかと思う”と言った。